

経供養次第

総本山 四天王寺

日時 令和二年十月二十二日 午後一時

式場 聖霊院西側庭上

参集装束 十二時 本坊内佛殿
整行列 十二時半 本坊冠木門
進行 十二時四十五分

先道行 経、衆僧は唐門より聖霊院に向かう

次 入道場 ねとりみちがく 猫之門より入場、楽人楽を奏す 経を経堂に安置

次 伽陀 つけものなし 法会の開始を告げる声明を唱える

次 集会乱声 鳳輦出御 鳳輦（聖徳太子）安置の奥殿 三綱により開扉

次 振銚 さんせつ 「舞楽目録参照」

次 両舍利登高座 かいばいらく 一舍利（管長狛下）、二舍利（舍利職次座）の両師は、楽に乗り舞台を渡り、登禮盤三礼し終り、高座に登る

次 願文 がんもん 一舍利（東側高座） 法華経読誦

次 諷誦文 ふじゆもん 二舍利（西側高座） 法華経読誦

次 舞楽 らんりきぢ 「舞楽目録参照」

次 唄 ばい のく 唄師は、楽に乗り舞台を渡り登禮盤、三礼し終り、着座 始段唄を唱える

次 散華 さんげ 衆僧は舞台上で、花びらを散らし、諸佛供養の声明を唱える

次 舞楽 とうてんらく 「舞楽目録参照」

次 梵音 ぼん のん 衆僧は楽に乗り舞台に昇り、梵音（声明）、錫杖（声明）を唱える

次 錫杖 しゃく じょう 仏のみ声（梵音）が、十方に響き渡り人々が安楽を得る

次 両舍利登高座 りようしやりとうこうざ 錫杖を鳴らし、その響きによって人々の仏心が呼び覚まされる

次 鳳輦入御 ほうれんにゆうぎよ 両舍利は楽に乗り高座を降り、登禮盤一礼、舞台を渡り本座に着く

次 還列 げん れつ 鳳輦安置の奥殿 三綱により閉扉

音取道楽 ねとりみちがく 経、衆僧は猫之門より本坊に還列する

以上

○ 経供養（椽の下の舞）について

「撰津名所図会」四天王寺法筵略記の中

「三月二日、未刻経堂経供養（中略）此日に震旦国（今の中国）より経論わたりし日なれば毎年経供養あり。秋野坊経巻を守護して伶人楽を奏し、経堂、太子堂の行道あるなり。太子堂西の庭上にて舞楽ある。これを俗に椽の下の舞という」とありまして、もとは旧三月二日に行われました。

古来この法事は非公開であつて、舞楽も衆人の目にはふれなかつたもので、それから大阪の方言の「椽の下の舞」ということばが始まったといわれています。

尚、この日「如法写経会」の写経もあわせて供養し経堂に納められます。